

令和6年度第2回恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時：令和7年3月21日（金）午後1時30分

場所：恵那市役所西庁舎3階災害対策室

1. 開会

2. 議事

- ・第2期ICT活用推進計画の進捗・取組状況について 資料No.1・2
- ・第3期ICT活用推進計画の策定方針（案）、体制、スケジュール等について 資料No.1
- ・意見交換

3. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明（欠席）
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭
4	商工団体	恵那市恵南商工会	瀬戸 利之
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	楯 博子
6	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次
7	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征（欠席）
8	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	平林 道博
9	副市長	恵那市	大塩 康彦（欠席）

■DX推進監

1	情報政策課（ソフトバンク株式会社）	竹内 武司（欠席）
---	-------------------	-----------

（事務局）情報政策課 小林、鈴木、森山

■傍聴者 0名

1. 開会

■事務局（進行）

定刻となりましたので、これより令和6年度第2回ICT活用推進委員会を開会いたします。本日の委員会ですが、6名の委員にご出席をいただいております。

また山崎委員、紀岡委員、大塩委員、竹内DX推進監の4名よりご欠席の連絡をいただいておりますので、よろしくお願いします。

また会議の公開及び公表については、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録につきましても公表させていただきますので、よろしくお願いします。

これより次第に沿って進めさせていただきますが、議事に入る前に藤井委員長から一言ごあいさつをいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

■藤井委員長

ICTの話なので、最近の話題としては生成AIについて、純粋に技術の観点から日進月歩で、大規模言語モデルと言いますが、大量に情報を集めて、学習させてそのAIがデータの元を作るのですが、大規模言語モデルのバージョンアップみたいなものが各社ほんとに進んできている。技術も純粋にそうだけど、それに伴ってやはり社会制度でその法律をどうするかとか、身近なところでいうと、私なんかの教育の現場では、生成AIは黙っていても学生は使ってくるので、明らかにレポートの質が上がります。例年と比べると、ほんとに素晴らしい文章となって、どれも似たようなものになる。それで使わせないというのが、教育として合っているのかというと、必ずしもそうではない。そういうのがある環境の中で生きていくという状況に、必要な教育は何なのか、本当に問わないといけない状況になってきている。生成AIで一番初めに職を失うのは、私のような大学の教員なのかもしれない。そんなことを戦々恐々しながらも日々暮らしているところです。

恵那市のICTということで、当然、そのような世の中の大きな流れからも避けて通れないと思うのです。ですので、恵那市のために、恵那市の将来を見据えながらぜひ議論をお願いします。

今年度はこれで終わりですが、引き続きよろしくお願いします。

■事務局（進行）

ありがとうございました。続きまして情報政策課長から挨拶申し上げます。

■情報政策課長

情報政策課長の小林です。本日は年末のお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。会の開催がこのような時期になってしまいましたこと、心からお詫び申し上げます。

本日は大塩副市長が欠席となっておりますが、3月で副市長を退任されます。本日は議会と内部調整会議の予定が入っており、欠席させていただいておりますが、委員の皆様方にくれぐれもよろしくお願いしますとのこと、また今後とも、色々な角度からお力添えいただきたいということを申しておりましたので、お伝えいたします。よろしくお願いします。

■事務局（進行）

それではこれより議事に入りますが、議事進行については、藤井委員長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

■藤井委員長

それでは第2期ICT活用推進計画の進捗状況、取組状況について、事務局よりご説明よろしくお願いします。

2. 議事

- ・第2期ICT活用推進計画の進捗状況、取組状況について

〔事務局から資料No.1・2に基づき説明〕

■藤井委員長

ありがとうございました。議事1つと資料1つを事務局から説明していただきました。これまでのご説明に関して、質疑の時間を取りたいと思います。まず初めに私から、ハローサイクルについて、恵那で始めたので入ったのですが、急速に都市部でも広がっていますよね。それで教えていただきたい。これは企業が運営しているものですよね。市役所としてはどういう契約というか、どのような関わり方で推進しているのか。広げようと思ったときにどういうことが生じるか。要するに、このプロジェクトそのものは、いろんなエンティティが関わるじゃないですか。地権者もそうだし、その辺ちょっと簡単に教えていただけるとありがたいなと思います。

■事務局

そうです。ステーション広げるとか、そういったところに関しては、当然、地権者の問題だとかあります。例えば恵那高校の近くに作ったステーションは、確か県の所有している土地ということで、県と調整しながら設置している。あとは市からの働きかけというよりも、高校からも働きかけていただいたり、そういったことで、ステーションを広げているというところがあります。当然の私有地とかもありますので、そういったところは地権者の理解を得ながら、やっているというところがあります。

■藤井委員長

お金の部分は当然発生すると思う。ステーションを提供していると、そこに一定の金額を払うでしょう。利用率との関係みたいなことを考えると結構複雑かなと思うが。

■事務局

市では、土地の借り上げに決まりがあつて、面積に対していくらとかつていうところの部分で、固定で払っているというようなところがある。

■藤井委員長

市が借りてやっているのか。

■事務局

そうです。土地に関しては市が借りています。

■藤井委員長

それでは事業を提供する事業者はそこには関わっていないのか。

■事務局

そうです。ステーションの設置とかには関わっているが、土地の交渉だとかお願いというのは、市からの働きかけで行っている。

■藤井委員長

全国でこの事業というのは、自治体が同じようにやっているのか。

■事務局

他の自治体の例は分かりませんが、恵那市としては、そのやり方で行っている。

■藤井委員長

東京の場合はすみ分けがされていて、山手線の外側は、黄色い自転車で、内側は違う事業者で赤い自転車というすみ分けがされている。モビリティなので関係があるかと思い、電動サイクルだけではなくて、新しいタイプのナンバーがついているヘルメットがないもの、あれは結構、東京で動いている。漕がなくていい自転車。

もう1つ、私から質問です。教育事業とか色々やられていますが、未来キャンパスの関係はどうですか。

■事務局

まだ未来キャンパスと先程紹介させていただいた教育の関係の連携やすみ分けの部分でまだ模索中の部分があります。

企画課、教育委員会と、話をする中で小中学生も未来キャンパスに繋げていきたいという教育委員会の思いもあります。未来キャンパスも潜在的にそのような児童生徒がやりたいというプログラミングとかA I とかやりたいというような児童生徒が存在しているのではないか。お互い同じような思いを持っていたので、これからになりますが、いろんな授業になるのか、また学校の中で紹介していくのか、まだ分からないですが、連携してやっていくというところで、話を進めているところであります。

■藤井委員長

せっかくいい取り組みで、結構動いているみたいなので柔軟に動いてもらえれば。それでは、他によろしいでしょうか。

■岩井委員

3点お願いします。僕が提案したいのは、住民向けの電子回覧板の仕組み。今どこの町も自治会に入らない人が増えてきて、今後ますます増える可能性があるのではないかと思います。とてもいい仕組みなので一度検討してもらいたい。この近辺では高山市が去年ぐらいから始めている。もともと自治会の組織というのが、回覧板の配布や行政の手足の部分としてできてきたと思います。その部分をそのまま電子化に変えていくというのが、今後の需要ではないかなと思う。あとよかったのは防災なんかも、安否確認が瞬間でとれる。1時間ぐらいで50パーセントと超えてしまう。夕方には、100パーセント近いぐらいの安否確認が出来てしまう。また高齢者向けでは認知症防止のゲームであったり、色々な仕組みを利用されていて、普段からタブレットに親しめる環境というのを作ってみたりとか、いろいろ工夫をしています。スマホに行政の情報を出すというようなこともやっている。私も微力ですが、防災利用観点でタブレットを使って、学校の探究でタブレットを使って写真撮ったりとか、自分たちのマップ作りということをやっている。

最後は災害体制ということで、能登半島もそうでしたが、メタリックは切れる。光でもメタリックでもそうだけど、有線は切れると思った方がいいと思います。その上で当然、防災行政無線もありますが、今回僕がお話したいのは、スターリンク。衛星通信を導入されたほうが良いのではないかな。特に串原や飯地とか、これは完全孤立するので、そういったところの孤立対策の通信確保、やっぱり行政では考えていけないと思います。

■藤井委員長

教えていただきたい。安否確認が楽になったという話は、防災訓練などのシミュレーションの状況で、そのような結果になったという話ですか。

■岩井委員

実際に、富山大学の安田先生から、ご紹介があって、やるから来ないかと話になった。富山大学の学生も入っている。だからできない高齢者は学生に教えてもらいながら。

自治会メンバーは自治会長が把握できますが、入っていない人は把握できない。最近は自治会に入っていない、大井町では4割ぐらいが入っていないので、その方は安否確認ができない。電子化することによって個人のタブレットやスマホに配信して、安否確認ができる。

■事務局

今ちょうど内部では検討始めたばかりだが、現在は有線のケーブルを使った告知放送があるが、今回の災害みたいな時に電源がなくなったり、ケーブルが切れてしまったとかあったので、今後リプレイスしていかないといけないという話から、安否確認も含めて、いくつかのいろんなものが点在するのではなくて、プラットフォーム的なものを構築し、色々な機能を持たせるというようなことが必要なんじゃないかというのは、ようやく話し始めたところではある。ちょっと時間がかかるかもしれませんが、取り組んでいこうと思っております。

■岩井委員

それとソフトバンクさんも支援に入ってくれているので、「えーなび」を使ってなんかの仕組みも作ってもらえるわけなので、そういうふうに別物じゃなくても今あるものをちょっとアレンジして、考えてもらいたい。

■藤井委員長

今の話、流行りの言葉でいうとレジリエンスという。災害時の体制という話。世界的なトレンドで最も新しいところでは、その体制を束ねるときに、サイバー攻撃に対しても備えるということがぜひ必要ではないか。恵那市では、例えばランサムウェアの被害とか経験されていますか。

■事務局

経験はないです。

■藤井委員長

アメリカなどですと地方都市でも病院がそれで襲われて、今朝、今日の5時までに何千万円払えみたいな、それぐらいの規模の被害がすごく増えている。日本の地方都市も例外ではなくなる可能性は十分考えられる。

今このような話の文脈では、ぜひサイバーセキュリティに関しても継続されるべきである。

■平林委員

形といいますか、進め方についてちょっと感想を言わせてください。

第2期のICT活用推進計画の進捗状況と、第2期ICT計画の取り組み状況について、大変個別の事業につきまして、きちんと目標値を掲げて進捗状況を○か×ということで、丁寧にやっていてとてもいいなと思いました。

その反面、今度第3期に向けて、要は第3期に何を掲げていくかというためにやっていると思う。ですから、この第2期の計画が全体として、○なのか△なのか×なのか、その理由は何かというような、総合的に見ないと、個別の事業をバーっと上げてもらっているだけでは、やっぱり全体が見えてこないかなと思います。これだけのデータでもって、生成AIに総合評価を出したら何点になるのだろうというようなこと。できるかどうかわかりませんが、しかし、それはやっぱり生成AIにはできなくて、人間がものの見方でもって、こういうふうに並んだものの中で、さっき話題になったように、例えば防災のことがで、第2期の計画の中では、防災時におけるデジタル活用ということがすごく問題になって、今後第3期においては防災とICTということを重点的にやっていかないといけないと導き出せれば、それはそれでいいのではないかなと思う。

そういう個別なこととは別として。この計画の目的を見ますと、快適な生活環境の実現と市内経済の活性化となっていますが、端的には快適な生活環境の実現がどれだけ、どのようにできたかということと、それから市内経済の活性化がどれだけできたかという目的に沿って、総括しないと、いくつ個別のものを並べ取っても、なんか全体は見えてこない。全体を見るのは、人間の私たちの目だと思う。価値あるものが、例えば数値が低くてもすごく価値があること、いろいろいっぱいあったと思う。その宝物なんか、ぜひ担当の方には、やっぱり市役所の中で花形だと思う。これだけの数値をもって、また新しくこれから日進月歩の中で計画を立ていくというわけですので。総合計画を支える下位の計画として、ICTの計画は、さすがだなあっていうのを出示してもらえるといいかなと思います。

きっと数値目標にはならないで、文章表現になると思いますけど。全体として成果と課題は何だったのかというような、まとめができると、とてもいいなと思いました。

■藤井委員長

私もその役割を担ってくると思いますので、よろしくお願いします。

■平林委員

ジャンルが広くて、それぞれに優れた事業が取り組んでいるので、何が光るものという。掘り出し物だと今期の成果として言われるものは何なのかなと、自分が市民に自慢の機能になるのかなということを見つけられるといいかなと。

■藤井委員長

他にはいかがでしょうか。

D Xを進めると、私が個人的に感じていることですが。大学でD X、事務方の方がD Xを進めると、教員にとっては逆に使いづらくなったりとかする。なので、市役所のD Xを進めたら、実は市民にとっては手間が増えましたとか、前のやり方のほうが馴染みがありましたという結構あるのではないかなと思って、ぜひそういうところを気にかけていただけるといいなと思います。

ご意見がなければ、続きまして、第3期I C T活用推進計画の策定方針（案）、体制、スケジュール等について、事務局より説明をお願いします。

〔 事務局から資料1に基づき説明 〕

■藤井委員長

それでは、計画策定方針等について質問はありますか。よろしいですか。

〔 質問なし 〕

3. 閉会

■藤井委員長

これですべての議事が終了しましたので、最後に進行を事務局に戻します。

以上、ありがとうございました。

〔 閉 会 〕